



第4号
令和2年9月発行

新たな日常の中での創作活動へ

今年度は配信やリモートで

皆さん、お元気でお過ごしでしょうか？ この文章を書いている八月中旬現在は酷暑の日々が続いています。完成した第四号が配布される九月も、きっと残暑が厳しきだろうと想像しています。

皆さんもご存知のように、一時は収まっていた新型コロナウイルスの感染拡大は、七月末より再び勢いを増し始め、第一波とされる春を超える罹患者数が発表されています。それにもない、神奈川県では「共生共創事業」を含む主催事業を可能な限り配信やリモートで行うよう方針を打ち出しました。つまり、皆さんとともに創る創作活動そのものは継続しつつも、その形式については、皆さんの移動にかかる負担や直接に人が集まるリスクをできる限り抑さえ、安全と健康を第一に考えながら行える活動を実施していこうということになりました。この「共生共創事業」は、舞台芸術創作への参加や公演の鑑賞を通じて、皆さんの身体と心を元気にすることを目的としています。そのためには安全が第一です。皆さんに直接お目にかかれないことは本当に残念ですが、私たちは各企画を進めてくださっているアーティストの皆さんともに知恵を絞って、協力し合いながら、このような状況のなかでも皆さんと創作をともにしていく方法を探っていきます。

共生共創事業とは

神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても「ともに生きる」とも創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人々が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。

個性、舞台、ぞくぞく。
神奈川文化プログラム
MAGCUL
マカール

特集：共生共創事業が進めている動画配信とリモート・ワークショップ



新型コロナウイルスが脅威となりはじめた二〇二〇年二月より、外出や複数人が集まる行動の自粛が奨励されるなかで急速に広まったのが、LINEグループやZOOMなどによるリモートでの交流、YouTubeなどを利用した動画配信です。この共生共創事業でも、二〇二〇年度に入った頃から、特にシニア企画を中心に、各プロジェクトを進行する事務局が率先してこれを導入、会議やワークショップを行うことで活動を継続してきました。共生共創事業におけるオンラインでの活動を重視する方針により、秋から本格化する予定だったワークショップ、年度末の目標となる公演も、配信に舵を切っていくこととなります。そこで、今回は、すでに各企画が行ってきたオンライン化による取り組みや、それぞれの現場における工夫を紹介することで、相互のアイデアをシェアし、新たな日常の中で共生共創事業全体が充実していく道を探ります。



写真：加藤甫

CASE 1 チャレンジ・オブ・ザ・シルバー ビデオグラファー／金巻勲さん

金巻さんこそ「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」の安藤洋子さんを支える屋台骨です。すでにご案内してきた「シニア」のためのお家でできる心軽やかなダンスレッスン「動画」を安藤さんとともに作り上げたのが、この金巻さん。「チャレンジ」には企画が始まった二〇一八年度よりスタップとして加わり、参加者やワークショップの記録撮影、さらに多くの人たちに企画を担うための動画制作を担うことになりました。直接に集合してのワークショップを自粛せざるを得ない現在、これまで参加してきた動画制作を含め、いよいよ「ビデオグラファー」としての本領を発揮、今後ますますの活躍が期待されています。

かねまき・いさお

1986年名古屋市生まれ。ビデオグラファー。東京工芸大学芸術学部映像学科卒業。映像編集をメインに、プロジェクトベースで企画から映像制作に携わり活動している。また、ダンス作品や演劇作品にも出演し活動の場を広げる。並行して森美術館をはじめ、「OUR FAVOURITE SHOP」などショップ企画運営に携わる。2016年より千葉県松戸市のアーティスト・イン・レジデンス「PARADISE AIR」にてエデュケーター/コーディネーターを務める。近年では映像のみならず国内外の芸術文化事業に参画し、多岐に渡る活動を行う。

『シニアのためのお家でできる心軽やかダンスレッスン』 動画制作エピソード

七月十三日に配信されて以来、三万件近くの再生回数となっている本動画ですが、その作成には、金巻さんによる多くの工夫がありました。安藤さんのレッスンを初めて体験する多くの方に楽しんで頂くために、複雑すぎず、家庭でも安全にできる動きを安藤さんと一緒に模索、時に金巻さんが実際に動いてみることで、安藤さんに対し「やりやすい」「やりにくい」の提案も行ったそうです。テロップの入れ方、文字の大きさや書体の選択、動作の要点を伝えるクローズアップ画面の挿入など、他の多くのレッスン動画も参考に、判りやすさと、安藤さんが求めるアートとしての質の両立を図ったとのこと。撮影は神奈川芸術劇場内にある二会場で実験を行い、より安藤さんの動きが映える空間を選択。衣裳も、より空間に映える色を時間をかけて選びました。安藤さんとテストを重ねながら、二次元では伝わりにくい斜めの動作を避け、カメラを通して伝わりやすい水平・垂直方向への動きを重視したそうです。編集段階でも、イラストを入れたり、テロップの見やすさ、カウントの取りやすさを検証。数字の配色を安藤さんの衣裳の色と揃えるなど、動画全体がより美しく見えるよう工夫されています。

金巻さんの これまでとこれから

金巻さんは名古屋市のご出身で、神奈川県横浜市はお母様のご実家としてよく帰省されていたそうです。さらに、安藤洋子さんが所属されていた「フォーサイス・カンパニー」の公演をバリバリ観に行った経験も重なり、「チャレンジ」への参加に強く惹かれたとのこと。



これまでに、舞台の記録や美術館、ファッションプランの広報用映像、ドキュメンタリーの制作などもされ、時にはダンサーとしてステージに立った経験もあるそうです。映像に関わるあらゆる作業を仕事とする「ビデオグラファー」としての仕事だけではなく、拠点である千葉県松戸市ではアーティスト・イン・レジデンスの運営を行い、国内外の美術家と街を結びつける活動も行っています。「安藤さんと

は、今まで試みられたことのないもの、シニアのからだや動きから独自の表現を引き出すための「チャレンジをしたい」と語る金巻さん。映像を駆使し、「コロナ禍でも対面式のワークショップと同じように、安藤さんと同じ時間をともに過ごす新鮮な楽しさがあり続けるように工夫していきたい」と意気込んでいます。今後は安藤さんとともに伴走する金巻さんの活躍にも注目してください。

CASE 2

綾瀬シニア劇団「もろみ糍座」プロジェクトリーダー／倉品淳子さん
二週間に一度、倉品さんから届く圧倒的エネルギー



シンプルな設備で

「メカは苦手!」と語る倉品さん。技術的にはシンプルな設備とシステムで配信を行っています。もともとは稽古の様子を撮影されるという愛用のビデオカメラを三脚の上にセット、基本的にワンシーン・ワンカットの長回しの生放送状態で倉品さんがお話やアクションをし続けます。オケータイクをパソコンで読み込み、倉品さんがお持ちのYouTubeアカウントに投稿、劇団員に動画のURLをメールして、一連の作業が完了します。



◀当初は、画面に映る倉品さんの表情が暗いという問題がありましたが、クリップ付き照明を用い、空間全体を照らす照明とバランスも工夫することで克服。また、インターネットが苦手なメンバーのために、動画をDVDにして発送するなど、きめ細やかな対応に倉品さんの愛が込められています。



倉品さんがもろみ糍座メンバーに向けて定期的に行っている配信が面白い。これを見れば、劇団員の皆さんが元気になります。からだを動かし、演技に結びつけるストレッチや身体訓練だけではなく、トーク・コーナーが充実していること、皆さんから寄せられたコメントを、その名も「文通RADIO」のコーナーで積極的に紹介してお互いの交流につなげていること、バックのホワイトボードに倉品さんが手描きしたイラストや写真なども多用した手作り感が特徴です。

今後のワークショップについて、倉品さんはもろみ糍座の皆さんとともに話し合いながら実施方法を検討しています。ZOOMによるオンライン・ワークショップは確かに便利ですが、メンバーの中には様々な方がいらっしゃると思います。スマートフォンやタブレットを持っていない人、いない人。ご自宅にWiFi環境がある方、ない方。普段からインターネットを使いこなす方もいれば、もうとにかく機会が苦手! というメンバーも。当然、劇団員によってキャラクターもさまざまです。

しかし、どんな状況でも、どんなコンディションの方でも、演劇の力で皆さんに元気になってもらいたいと常に言っています。



▲劇団員とのZOOMテストの様子

劇団メンバーとともに
ワークショップ方法を模索中!

CASE 3

横須賀シニア劇団「よっしゃ!!」事務局スタッフ／田中正利さん



八月十一日。横須賀シニア劇団よっしゃ!!ではZOOMの講習会がおこなわれました。会場はお馴染みの活動拠点横須賀市青少年会館ホール。講師を務めるのは、今年度から事務局に加わった田中正利さん。昨年度で横須賀市立長井小学校の先生を定年退職されたことから、田中先生と呼ばれて親しまれている方です。

からハウリング音と笑い声が立ち始め、ホール全体を覆ってきます。劇団員同士の助け合いもあり、何とか全員がミッションを完了。これから、メンバーが自宅で一人でも同じ作業ができるか、それぞれのWiFi環境が適切であるか、という課題に向かっていくそうです。



いざ、平均年齢 70.4 歳の ZOOM 講習会へ!

響き渡るハウリング音と笑い声。田中先生の講習会は、アプリのダウンロードを指南するところから始まりました。もちろん「アプリとは何か?」という説明付きです。そこから皆さんでZOOMにアクセスし、上手くいかないメンバーの質問にスタッフが対応していきま。立ち上げに成功した人

日常生活にも変化が...

このZOOM講習会により、劇団員の皆さんの日常生活にも影響があったそうです。例えば、これまでLINEでの集まりには機会が苦手な方がZOOMを習得、別の方は毎週お孫さんとZOOMで会うようになったそうです。中には、もともとZOOMを使いこなして飲み会すら経験済みの猛者も。二月末の打ち上げも断念せざるを得なかった横須賀シニア劇団に、再び「よっしゃ!!飲み会」がやってくるかも!?

編集後記

この第四号を執筆・編集しながら、世間では感染者の数が日ごとに増え、共生共創事業の方針は大きく転換しました。これまで、九月からは直接の集合を行う、年度末には対策を取りながら公演や発表会を行うべく動いてきましたが、この令和二年度いっぱい配信やオンライン発表を基本に活動していこうということになったのです。戸惑いもしましたが、率直に安心した面もあります。この「共生共創事業」は公共の文化事業です。少しでもリスクを伴う活動は避けるべきではないか。皆さんの命や健康を第一に考えた創作を行うべきではないか。ずっとそう考えてきたからです。一つの方針が立てられた以上、安心と面白さを両立するという目標に向かって私たちは進むのみです。燃えています!

あなたの好きな「あそび歌」を教えてください!

共生共創事業では、日本や海外の「あそび歌」をリサーチしています。例えば、「アルプス一万尺」や「ずいずいずっころばし」など、友達や家族で歌に合わせて遊んだことはありませんか? そんな昔遊んだ、今遊んでいる「あそび歌」を教えてください。

詳しくは、ウェブ版共生共創事業の投稿フォームからご投稿いただくか、共生共創課(電話:080-5885-3373)までお電話ください。

